

平成 30 年 6 月 17 日現在

機関番号：37119

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12805

研究課題名(和文)女性と観光に関する総合的研究

研究課題名(英文)Integrated Research for Women and Tourism

研究代表者

友原 嘉彦(Tomohara, Yoshihiko)

西南女学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：60633261

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：女性と観光について、それぞれ専門分野の異なる6名が集い、学際的な共同研究を行った。友原は「女子旅」の特徴を国内外での調査により明らかにした。庄子は震災地の復興過程における女性ボランティアガイドの動向について研究した。鈴木は地域伝統芸能における女性の関わり方について考察した。高田は文学作品を基に男女の旅行時の心理的傾向の差異について示した。新名はジオツーリズムの舞台における女性の関わり方について明らかにした。丸山は富岡製糸場を事例として女工の歴史の観光者に対する見せ方について研究した。

研究成果の概要(英文)：About women and tourism was a collaboration of 6 researchers: Tomohara examined traveling of Japanese women in their 20s and 30s, so called "Joshi-Tabi". Shoji looked at disaster tourism and women. Suzuki researched traditional local performance and women. Takata studied travel literatures and gender. Niina looked into Geo-Tourism and women. And Maruyama examined the exhibit of the history of female labor at the Tomioka Silk Mill.

研究分野：観光学

キーワード：観光 女性 女子旅 旅文学 地域伝統芸能 ジオツーリズム 世界遺産 震災復興

1. 研究開始当初の背景

日本が男女共同参画社会や観光立国への移行期であることから、これらを繋ぐキーワードである女性と観光に着目し、「女性と観光に関する総合的研究」を研究テーマとした。

研究開始時には女性と観光に関する研究は散発的なものにとどまっており、体系的に研究を行なう必然性も高まっていた。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、女性と観光を巡る個々の特徴的な現象と共通性・全体像を示すことを本課題共同研究グループでの共通目的とした。

本研究は「女性と観光に関する総合的研究」をテーマとし、観光者側では主として、観光が現代女性の人生観や人生設計に与える影響について、観光地側では主として、観光が現代女性の社会的役割に与える影響について明らかにした。

共同研究グループ各人の役割については、代表者である友原が2010年頃より高まってきた「女子旅」について、この現象の背景と実相を明らかにすることを目的に国内外をフィールドとして研究した。以下、分担者として、庄子が石巻市を事例として、東日本大震災の被災地における観光の変化とその担い手としての女性の特徴を明らかにすべく研究した。鈴木は大分市の鶴崎踊を事例として地方における民俗芸能の運営に対する女性の役割と女性の踊りの成立と維持を明らかにすることを目的に研究した。高田は文学作品から男女の旅の特徴について明らかにするため研究した。新名は鳥取砂丘を事例としてジオツーリズムにおける女性の関わり方について明らかにすることを目的に研究した。丸山は富岡製糸場と中尊寺を事例として歴史上の女性の表象がどのようなものになっているか、また、観光者の当該表象の関心について明らかにすることを目的に研究した。

3. 研究の方法

上記の共同グループ全体の研究目的と、これを遂行するためのメンバー固有の研究目的を踏まえ、共同グループ全体の研究目的を達成するための支柱となるメンバー固有の研究が行ないやすいよう、それぞれに研究方法を委託する仕方を採用した。

研究代表者である友原は「女子旅」の背景を文献から研究、実相については科研費を使用した分については西欧でフィールドワークを行ない、実際の「女子旅」観光者にアンケートや聞き取り調査を実施した。以下、研究分担者として、庄子は文献研究から石巻の被災と復興の現状を示した上で、女性の被災地ガイドに取材した。鈴木は文献研究から鶴

崎踊りの史実を示した上で、現状については2度の参与観察を基に考察した。高田は林芙美子の『放浪記』(1930)と『浮雲』(1951)、グレアム・スウィフトの『最後の注文』(1996)、高橋たか子の『誘惑者』(1976)、恩田陸の『まひるの月を追いかけて』(2003)に研究目的を遂行した。新名はジオパークについて海外と国内の状況を示した上で、そこを観光する女性とそこで勤務する女性についてガイドツアーなどの催しや女性職員の採用状況などを切り口として考察した(図1 女性ガイドと女性観光者が共に参加しているジオパークツアーにおける参与観察)。丸山は当該研究対象地の観光にかかる文献を基に状況を把握した上、研究にかかる対象者にアンケート調査や聞き取り調査を行なった。



図1 女性ガイドと女性観光者が共に参加しているジオパークツアーにおける参与観察

4. 研究成果

上記の研究目的、及び、研究方法を踏まえ、遂行した結果、共同研究グループ全体としては観光を通して現代女性の人生観や人生設計(主として友原、庄子、高田の研究による)また、観光が女性にどのような役割を与えているのか(主として、鈴木、新名、丸山による)について明らかにすることができた。さらに、以下に共同研究グループ各人における成果の概略を示す。

代表者の友原は「女子旅」成立までの過程と西欧における「女子旅」の移動と行動、心理についてグループと個人に分け、年齢や文化資本を手掛かりとしてこれらを明らかにした(図2 旅行する「女子」の四分類)。庄子は女性の被災地ガイドの人生とガイド業務のやりがいについて明らかにした。鈴木は地方民俗芸能における女性の踊りの成立と維持について示し、運営上の女性の役割についても明らかにした。高田は文学作品から旅行の分類について整理し(図3 多様な旅の分類)男女の旅における心理的な傾向の差異について明らかにした。新名はジオツーリズムにかかる女性について、観光者、スタッフのそれぞれの傾向を明らかにした。丸山は世界文化遺産における過去の実際に女性が従事していた業務や生活と現在の観光資

源としての見せ方や表象について比較し、これを検討して示した。

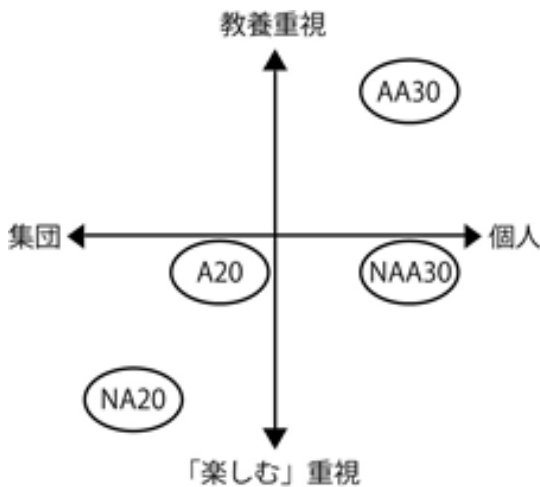


図2 旅行する「女子」の四分類
 (AA30 = 文化資本の高い20歳代後半から30歳代の女性、NAA30 = 文化資本が高くはない20歳代後半から30歳代の女性、A20 = 文化資本の高い20歳代前半から中盤までの女性、NA20 = 文化資本が高くはない20歳代前半から中盤までの女性)

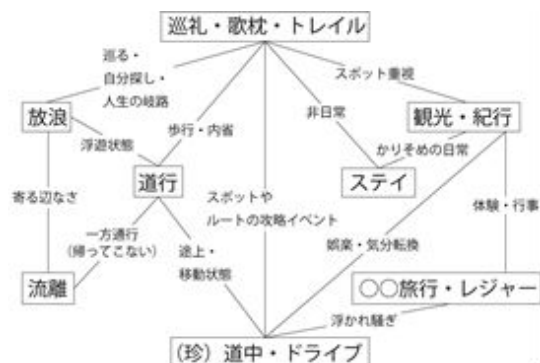


図3 多様な旅の分類

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

友原嘉彦(2016)「西欧における日本人若年女性観光者」四日市大学総合政策学部論集15(2)、pp119-128.

〔学会発表〕(計 4 件)

友原嘉彦(2017)「現代『女子』観光論」2017年度西南女学院大学人文学部観光文化学科公開講座 シンポジウム 観光を通して考える女性の人生

友原嘉彦、庄子真岐、鈴木洋子、高田晴美、小林希(2017)パネルディスカッション「観光を通して考える女性の人生」2017年度西南女

学院大学人文学部観光文化学科公開講座 シンポジウム 観光を通して考える女性の人生

友原嘉彦(2016)「アラサー女子の観光」北九州市立年長者研修大学校周望校舎 2016年度シニアサマーカレッジ

鈴木洋子(2016)「規範化されゆく男の踊り：ジェンダーの視点から見た鶴崎踊り」シンポジウム「民謡研究の現在」

〔図書〕(計 1 件)

友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等

6. 研究組織
 (1)研究代表者

友原嘉彦(西南女学院大学 人文学部 准教授) 研究者番号：60633261

(2)研究分担者

庄子真岐(石巻専修大学 経営学部 准教授) 研究者番号：40587903

鈴木洋子(和光大学 表現学部 准教授) 研究者番号：20303034

高田晴美(四日市大学 総合政策学部 准教授) 研究者番号：420633059

新名阿津子（公立鳥取環境大学 環境学部
准教授）研究者番号：20578223

丸山奈穂（高崎経済大学 地域政策学部 准
教授）研究者番号：60612603

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()